

株式会社ティ・アイ・ディ  
営業グループBチームリーダー

平野法久



## INTERVIEW

## 韓国での高実績を誇る製品群で 日本のセキュリティニーズに対応

創業以来、幅広いネットワークビジネスを展開してきたティ・アイ・ディが、高まるセキュリティニーズに対応。韓国Future Systems社が開発する『SecuwaySuite』による、ソリューション提供を開始した。製品の特徴、今後のビジネス展開について同ビジネスを統括する平野法久Bチームリーダーに聞いた。

まずはFuture Systems社について、ご紹介ください。

**平野** 1987年に誕生した、TCP/IPとセキュリティ技術をコアに成長している企業です。その技術レベルはとて高く、例えば自社開発した128bit暗号化アルゴリズム『Crypton』は、98年の米国商務省標準技術局「NIST」主催のAdvanced Encryption Standard公募で、評価対象アルゴリズムに認定されました。この認定をアジアで受けたのは、NTTと同社の2社だけです。また、VISAではセキュリティを確保するため、認定した暗号化製品をATMに搭載しているのですが、この認定製品のひとつが同社製で、アジア地区ではVISAの全ATMに、同社の暗号化製品が組み込まれています。

さらに、VPNのコア技術も自社開発しており、預金保険公社、韓国銀行、新韓生命、HYUNDAI情報技術といった公共機関、金融機関、大手企業に提供中です。韓国通信にはVPNサービス向けにVPN装置を独占供給するなど、韓国では70%のシェアを獲得しています。

そうした高い技術で開発され、公共機関や金融機関が求めるレベルの高いセキュリティサービスを実現している製品

群が、SecuwaySuiteというわけですね。  
**平野** その通りです。これは、ソフトウェア型製品と違い、OS、ハードウェア、アプリケーションのすべてを自社開発しているところが大きなポイントとなっています。その結果、親和性が高く、動作も安定していることに加え、より堅固なセキュリティが実現されているのです。現在提供しているSecuwaySuite2000は、アプライアンス型のSecuwayGateが4機種、管理用のSecuwayCenterが2種類、クライアント用製品が2種類という構成。この組み合わせで、SOHOから2000名規模の大企業までが求めるセキュリティやVPNニーズに対応できます。VPN構築機能はSecuwayGate全製品が標準搭載で、IPSecとL2TPによる柔軟性の高いVPN環境の構築が可能となります。さらにフェイルオーバー機能も標準搭載しており、冗長構成をとることで障害の発生に際しても、数秒で切替を実現します。また、DMZポートも標準搭載なので、Webサーバの構築も可能です。もうひとつの大きな特徴が、韓国で特許を取得しているBlack Zoneポートを装備していることです。これは外部から認識できないステルス性のポート

で、侵入検知システムなどにトラフィックすべてを取り込むことができ、別途システムを構築することで解析も行えます。このほか、ユーザーポリシーにあわせて選択可能な8種類の暗号化アルゴリズムを標準で搭載。細かいポリシー設定が簡単にできるよう、Firewall-1ライクなインタフェースで使いやすいSecuway-Gate用設定管理ソフト『GateAdmin』の日本語化も終わっています。

最後に、今後のビジネス展開における計画などをお聞かせください。

**平野** Future Systems社との契約後、エンジニア教育を韓日で実施し、技術力のアップに努めてきました。そして今年3月から本格的なビジネスを展開しています。現在の日本は第一世代のファイアウォールがリプレースされる時期にあることから、かなり良い感触を得ています。

今後の計画としては、この感触を確かなものにするため、直販と10社前後の有力販売代理店による、二本柱での展開を考えています。また、当社には45年間の実績を誇る、24時間365日のフルサポート体制があります。これを活用したフルサポート体制の確立も、常時接続時代のセキュリティニーズに対応するためには、重要になると考えています。こうした体制・システムの整備により、年間10億円を目標に積極的なビジネスを展開していく予定です。